

FIRST STEP

～「振り返り」を自信に変えて、「質」を高める段階へ～

前期を終えて

—「できる」から「質を高める」へ—

後期は、単に「手順通りできる」レベルから「表現や技術の質を高める」段階へとステップアップする大切な時期です。上位級になればなるほど、細部へのこだわりや丁寧な意識が評価の明暗を分けます。

上位級で求められるのは、いつでも同じ高クオリティを発揮できる「技術の正確性と安定性」、目の前の子どもを引き込む自然で説得力のある「表現の質」、そして本番の緊張やアクシデントにも動じず柔軟に対応できる「応用力」です。これから始まる後期受検の申込に向けて、これらの力を意識しながら高い目標に向かって挑戦していきましょう！

R8 検定結果（前期）

		3 級	2 級	準 1 級	1 級
音 楽	受検者数	15	7	3	2
	合格者数	15	7	3	0
	合格率	100	100	100	0
造 形	受検者数	14	3	6	1
	合格者数	13	3	6	1
	合格率	93	100	100	100
言 語	受検者数	11	5	6	1
	合格者数	11	5	6	1
	合格率	100	100	100	100
看 護	受検者数	7	6	6	4
	合格者数	7	6	6	3
	合格率	100	100	100	75
合 計	受検者数	47	21	21	8
	合格者数	46	21	21	5
	合格率	98	100	100	63
級合格者数		8	3	3	0

※「合計」欄について：音楽・造形・言語・看護の4種目の合格実績を合算した「延べ人数」です。

※「級合格」について：4種目すべてに合格し、その級を完全に取得した人数を指します。

令和 8 年度 前期検定結果を振り返って

前期検定は、延べ 97 名が受検し 93 名が合格（全体合格率 95.9%）、さらに 14 名が「級完全取得」を達成する見事な結果となりました！今回の成果と課題のポイントは以下の3点です。

- ◎ 2 級・準 1 級の全種目 100% 合格：基礎技術がしっかりと定着し、圧倒的な安定感を示しました。
- ◎ 3 級での着実なステップアップ：延べ 46 名が合格し、8 名が「3 級完全取得」を果たしました。
- ◎ 1 級で実感した「質の壁」：合格率 62.5% となり、上位級ならではの表現の深さを学びました。

「できたこと」は大きな自信に変え、「届かなかった部分」は後期で克服すべき明確な目標に変えていきましょう。後期受検の申込に向けて、一歩先を行く自分の姿をイメージして準備を始めていきましょう！

⚠ 陥りやすい「落とし穴」と切り替え方

- ✕ 「あ～ダメだった…」「点数低かった…」と一喜一憂して終わる
👉 ○ 「何が原因だったか？どこを工夫すれば伸びるか？」まで書き出す！
- ✕ 「なんとなく最後までできる」で満足してしまう
👉 ○ 手順の抜けや無意識のクセを見直し、「見せ方・丁寧さ」にこだわる！
- ✕ 「終わった～！」と楽譜や道具をそのまま放置する
👉 ○ 気づいたことやアドバイスを、忘れる前にノートや楽譜へメモする！
👉 後期は「練習の量」だけでなく「練習の質」を上げることが合格への近道！

🔴 今やること（後期受検申込に向けて）

- ☐ 前期で見た自分の弱点を明確にし、克服計画を立てる
- ☐ 後期に受検する種目と目標級（上位級・再挑戦）を決定する
- ☐ 裏面の「目標設定ワーク」と「自己評価ルーブリック」を記入する

【先輩の一言】

〇 「終わってからの振り返りが一番成長につながった！」

あの合格者も
やっていた！

実践編！その一歩先へ 分野別ワンポイント

～合格への道～

【音楽】

☑表現（強弱・感情）

曲の情景や歌詞に合わせて音の強弱をつけ、豊かで明るい歌声を届ける。

☑安定したテンポ

緊張しても走らず、一定のテンポを曲の最初から最後まで保つ。

【造形】

☑完成度＋独自性

テーマに沿った構図や配色、素材を工夫し、ストーリー性のある画面を構成する。

☑丁寧な仕上げ

塗りムラや下書きの消し残しをなくし、のり汚れのないよう綺麗に美しく仕上げる。

【言語】

☑抑揚と間の質

登場人物の気持ちに応じて声のトーンを変え、「間」を効果的に使って惹きつける。

☑引き込む力

広い視線（アイコンタクト）で、目の前の子どもたちと一体感のある空間を作る。

【看護】

☑正確性＋安心感

動作・手順を迷いなく正確に行い、安全・衛生に最大限配慮する。

☑応答的関わり

作業にならず「～しようね」と優しく声をかけ、安心感を与える関わりを徹底する。

📄 ミニワーク（後期の目標設定）

□前期でうまくいったこと（自分の強み）・成長できたと感じるところは？（例：ミスしても最後まで笑顔でやり切れた／声がハッキリ出るようになった）

□後期に挑戦する級（種目）・合格に向けて克服したい「自分の課題」は？（例：ピアノのテンポが速くなる／造形の構成に時間がかかりすぎる）

□その課題を解決するために、明日から行う「具体的な行動」を書こう！（例：テンポが走らないようにメトロノームを使って毎日10分練習する）

📋 自己評価ルーブリック

観点① 表現（声・表情・視線）

- 5点：子どもを引き込む豊かな表情・声・視線が自然に発揮できている
- 4点：意識して明るい表情や声を出しており、良い印象を与えている
- 3点：ほぼ問題なく表現できているが、やや硬さが残る
- 2点：緊張で表情や声が硬くなったり、テンポが速くなったりする
- 1点：声が小さく表情も硬く、意図が伝わりにくい

観点② 技術（正確さ・手順）

- 5点：正確かつスムーズで無意識レベルで実施できる
- 4点：手順や動作が安定しており、小さな修正も自分で行える
- 3点：基本的にはできており、合格ラインに達している
- 2点：手順や動作に迷いがあり、途中でギクシャクしてしまう
- 1点：手順理解が不足しており、不正確な動作が目立つ

観点③ 再現性（練習～本番までの安定）

- 5点：いつ・どんな環境でも、高いクオリティを安定して再現できる
- 4点：練習でも本番でも、大きなブレがなく安定している
- 3点：ほぼ安定しており、合格ラインをキープできる
- 2点：日によって出来不出来の差（ばらつき）が大きい
- 1点：安定しておらず、最後までやり切れるか不安がある

観点④ 本番対応（対応力）

- 5点：ミスやアクシデントがあっても焦りを顔に出さず、自然に立て直せる
- 4点：少し動揺しても落ち着いて持ち直し、最後までやり切れる
- 3点：軽い乱れはあるが、手を止めずに継続できる
- 2点：ミスをすると焦ってしまい、動作や演奏が止まりがちになる
- 1点：間違いに気づいた時点で完全に手が止まってしまう

💡 今年度の戦略：自己評価をしよう！

上記のルーブリックから自己評価してみよう。「質」の観点で厳しくチェックし、本番で力を発揮できるか判断しよう。（級/種目欄は前期に自分の受検したものを記入）

級/種目									
観点①									
観点②									
観点③									
観点④									
合計点									

自己評価コメント・気づき：

✉ 担当教諭より ～～

ここからは「差がつく段階」です。基礎ができるようになったからこそ、表現の「深み」や手順の「丁寧さ」といった細部にこだわる人が一気に伸びていきます。申込を済ませたら、もう次の勝負は始まっています。高い目標に向かって挑戦する皆さんを、後期も全力で応援します！

📅 編集後記

- 振り返ることで成長が見える！
- 質の追求に終わりはない！後期の申込から、次の勝負は始まっている！

お知らせと注釈

- ・本文の保育検定各種目は「音楽」「造形」「言語」「看護」と略記しています。
- ・一部画像（「一歩」を象徴するシルエット等）は Google AI により生成したものを加工して使用しています。